

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
<p><b>固渋剂 固崩止帯剂 3</b></p>		
<p>こけいがん 固経丸</p>	<p>滋陰清熱・止血固経</p>	<p>黄芩・白芍・亀板各 30g・椿根皮 21g・黄柏 9g・香附子 7.5g 粉末にし 1日 1~2回 9g ずつを湯で服用する。 約 1/3 量の水煎し、服用してもよい。</p>
<p>医学入門</p>	<p>&lt;主治&gt; 陰虚内熱、崩漏 月経期間の延長、不正性器出血、経血や出血が深紅あるいは紫黒色の凝血塊を混じえる、身体が熱っぽい、腹痛、尿が濃い、舌質が紅絳、脈が弦数など。</p> <p>&lt;病機&gt; 陰虚火旺に肝鬱化火を兼ねた火熱が、衝任に乗じて迫血妄行したための経行不止、崩漏である。 血熱であるから出血や経血が深紅であり、甚だしいと血を煎熬して紫黒色の瘀塊を形成する。陰虚火旺のために身体の熱感、舌質が紅絳、脈が数を呈し、肝鬱化火を伴うので脈が弦であり、脾胃に横逆すると腹痛が生じる。</p> <p>&lt;方意&gt; 滋陰清熱、舒肝により本治すると同時に、固経止帯の標治を行う。 滋陰潜陽、益腎の亀板が主薬で、収陰養血、柔肝の白芍で補佐し、滋陰養血、柔肝潜陽の効果をあげる。黄芩・黄柏は瀉火によって止血を促し、椿根皮は収澁止帯する。さらに香附子で疏肝調気、和血する。全体で陰血を滋補し火熱を清し肝気を舒暢し、固経止帯する。</p>	